

2025 年度 看護師職能委員会 I 活動報告

I 活動目標

- 1 病院領域で働く看護職の課題を発見し、意見を集約する。
- 2 看護職の役割の明確化と共に働きやすい環境づくりを支援する。
- 3 看護職の質向上・スキルアップへの支援

II 公益目的事業

1 活動内容

- 1) 病院で働く看護職の課題発見のための調査、意見収集
- 2) 看護職の資質向上のための研修会等の企画・実施
- 3) 看護職の交流を通して情報交換し、看護職の活性化を図る

2 活動の実績

実施項目 【開催場所】	内 容	開催日等	参加者数
定例会 【神奈川県看護協会】	1) 理事会報告及び全国職能委員長会等の報告・情報交換 2) 事業計画の検討・実施・企画 3) 病院領域で働く看護職の課題発見・情報共有	全 12 回	11 名
研修会 【同上】	テーマ：「ナッジ研修第 3 弾実践編 ～ナッジを設計し、わたしの看護現場をよくしよう」 講 師：慶応義塾大学 看護医療学部 大学院健康マネジメント研究科 教授 小池 智子	10.10（金）	17 名
	◆ハイブリッド形式で開催 テーマ：「身体拘束に頼らない対応ができる看護職になろう」 講 師：済生会横浜市東部病院 老人看護専門看護師 丸山 理恵	1.9（金）	135 名 会場 34 名 オンライン 101 名
調査研究	2025 日本看護協会が提案する 「就業継続が可能な看護職の働き方の提案 10 項目」への 神奈川県内の病院における取り組み状況追跡調査」	11.1～1.31	304 施設

III 会員支援事業

1 活動内容

- 1) 職能集会・講演会で事業計画を説明し、看護師職能委員会 I の活動を周知する。

2 活動の実績

実施項目 【開催場所】	内 容	開催日等	参加者数
職能集会 【神奈川県看護協】	◆ハイブリッド形式で開催 1) 2024 度看護師職能委員会 I 活動報告 2) 2025 年度看護師職能委員会 I 活動計画	7.10（木）	216 名 会場 48 名 オンライン 168 名
講演会 【同上】	◆ハイブリッド形式で開催 テーマ：意思決定支援 「患者本人が決める」ことを支援するために 講 師：湘南医療大学 保健医療学部看護学科 教授 渡邊 眞理		

看護師職能委員会 I 研修（講演会）実施報告

研修（講演会）テーマ	意思決定支援「患者本人が決める」ことを支援するために		
主 催	看護師職能委員会 I		
講 師	渡邊 眞理氏（湘南医療大学保健医療学部看護学科 教授）		
開 催 日 時	2025 年 7 月 10 日（木）14:00～16:00		
目 的	患者の意思決定を多職種でどのように支援するかのプロセスについて学ぶ		
内 容	講演		
場 所	神奈川県看護協会第 1 研修室（神奈川県総合医療会館 6 階）		
参 加 対 象	看護職	参 加 人 数	216 名 (会員 197 名・非会員 19 名)
まとめ・評価	1. アンケート回収 147 名 回収率（委員を除く） 73% 1) 会員：132 名 2) 非会員：15 名 2. 職種 1) 看護師：141 名 2) 助産師：3 名 3) 保健師：1 名 4) 准看護師：0 名 5) その他：2 名（学生） 3. 研修会を知ったきっかけ 1) 看護協会からの案内チラシ：68 名 2) 看護協会のホームページ：30 名 3) 上司からの情報：23 名 4) 友人・知人からの情報：3 名 5) 協会 LINE：21 名 6) その他：2 名 4. 参加動機 1) 自ら進んで：121 名 2) 上司の勧め：24 名 3) 同僚の勧め：0 名 4) ホームページを見て：1 名 5) その他：1 名 5. 感想 1) 非常に良かった：64 名 2) 良かった：68 名 3) 普通：10 名 4) やや期待はずれ：5 名 5) 期待はずれ：0 名 5. アンケート内容 ・いろいろな法律や理念の理解が深まった。ありがとうございました。 ・支援者の能力向上が必要であるとの講義に、学び続けていきたいと思った。 ・事例に対する先生の意見や看護実践を聞きたかった。 ・受講者のマイクが入ってしまい聞き取りにくいところや動画が一部見づらかった。 6. 評価 患者の意思決定支援を行うことが 2024 年度の診療報酬改定において入院基本料の通則に盛り込まれ研修を企画した。今回の研修では、高齢患者の意思決定支援やそれに関わる必要な法律・ガイドラインなど詳細な説明があり、意思決定支援をしていく過程での基本的な原則を学べた。 アンケート結果では、約 90%の受講者が「非常に良かった・良かった」との回答があり、満足度が高かったと評価する。 講師への質問の際に、事例に関する具体的な意思決定支援の方法についての質問が多く、実践での悩みがあるのではないかと感じた。今後、意思決定支援についての具体的な事例を踏まえ、支援者の能力向上を目指した研修会を検討していく。		



看護師職能委員会 I 研修（講演会）実施報告

研修（講演会）テーマ	ナッジ研修 第3弾 実践編「ナッジを設計し、わたしの看護現場をよくしよう」		
主 催	看護師職能委員会 I		
講 師	小池 智子 氏（慶應義塾大学看護医療学部・大学院健康マネジメント研究科 准教授）		
開 催 日 時	2025 年 10 月 10 日（木）14:00～16:00		
目 的	ナッジを活用した看護現場をよくする仕掛けの設計に取り組む		
内 容	講義およびグループワーク		
場 所	神奈川県看護協会第1研修室（神奈川県総合医療会館 6 階）		
参 加 対 象	看護職	参 加 人 数	17 名 （会員 16 名・非会員 1 名）
まとめ・評価	1. アンケート回収 13 名 回収率（委員を除く） 76.4% 1) 会員：12 名 2) 非会員：1 名 2. 職種 1) 看護師：12 名 2) 助産師：1 名 3) 保健師：0 名 4) 准看護師：0 名 5) その他：0 名 3. 研修会を知ったきっかけ 1) 看護協会からの案内チラシ：1 名 2) 看護協会のホームページ：4 名 3) 上司からの情報：4 名 4) 友人・知人からの情報：2 名 5) 協会 LINE：0 名 6) その他：2 名 4. 参加動機 1) 自ら進んで：10 名 2) 上司の勧め：2 名 3) 同僚の勧め：1 名 4) ホームページを見て：0 名 5) その他：0 名 5. 感想 1) 非常に良かった：12 名 2) 良かった：1 名 3) 普通：0 名 4) やや期待はずれ：0 名 5) 期待はずれ：0 名 6. アンケート内容 ・講師の解説が自分達の視野を広げるものであり時間がもっとあっても良かった。 ・ナッジ設計への理解が深まり、自施設で実践するのが楽しみとなった。 ・今回の研修で新しい発見ができ、とても勉強になった。講義もとても楽しかった ので、是非次回も参加したい。 7. 評価 少人数制とし、直接講師の指導も受けやすく、今後の活動に役に立つ内容であったとの意見があり満足度は高かった。2 時間の研修時間はやや延長したが、受講生からは時間が足りないとの意見もあり、GW メインの研修の場合は、研修時間の検討が必要である。 自施設だけでなく、他施設の取り組みも一緒に考えることができ、学びが深まった。 事前課題や GW により受講者のハードルは上がったが、ナッジの設計を理解し、自施設の業務改善、効率化、行動変容に繋げる手法として適切な研修であった。		



看護師職能委員会Ⅰ 研修（講演会）実施報告

研修（講演会）テーマ	「身体拘束に頼らない対応ができる看護職になろう」		
主 催	看護師職能委員会Ⅰ		
講 師	丸山 理恵氏 済生会横浜市東部病院 老人看護専門看護師		
開 催 日 時	2026年1月9日（金）14:00～16:00		
目 的	高齢者の特徴、認知症患者の困りごとを理解し、身体拘束をしない対応を考える		
内 容	講演		
場 所	神奈川県看護協会第1研修室（神奈川県総合医療会館6階）		
参 加 対 象	看護職	参 加 人 数	135名 （会員119名・非会員16名）
まとめ・評価	1. アンケート回収 95名 回収率（委員を除く）75.4% 1) 会員：86名 2) 非会員：9名 2. 職種 1) 看護師：94名 2) 助産師：0名 3) 保健師：0名 4) 准看護師：1名 5) その他：0名（学生） 3. 研修会を知ったきっかけ 1) 看護協会からの案内チラシ：34名 2) 看護協会のホームページ：22名 3) 上司からの情報：28名 4) 友人・知人からの情報：2名 5) 協会LINE：6名 6) その他：3名 4. 参加動機 1) 自ら進んで：74名 2) 上司の勧め：21名 3) 同僚の勧め：0名 4) ホームページを見て：0名 5) その他：0名 5. 感想 1) 非常に良かった：44名 2) 良かった：35名 3) 普通：12名 4) やや期待はずれ：4名 5) 期待はずれ：0名 6. アンケート内容 ・日々の悩ましいテーマであり、興味深くケアに活かすことが出来る内容であった ・実際の事例をもとに原因・要因や具体策などを聞くことができ大変参考になった ・身体的拘束最小化に対応するための関わりを学ぶことができ良かった ・テーマに「認知症の知識について」の文言が入っていると良かった 7. 評価 アンケートの結果では、83.2%が非常に良かった・よかったと回答しており、満足度は高かった。 身体的拘束を最小化する取り組みについて、3つの原則を実践していくことが、最小化に繋がると学んだ。 患者は現状を理解は出来なくても、感情は残るため、そこに焦点をあて不快を除去し、尊厳を大切にしたい関わりが重要であると再認識した。 身体的拘束最小化に向けて対応している病院は多く、今回は現場の看護師が自主的に参加しており、現場のニーズにあった研修会であったと評価する。		

